

## 委員質問・意見等

3月2日受付分

### ➤ 東京電力に対する質問

制御棒について。制御棒のたわみについて、4,000mm で 30mm 曲がるこれはもとに戻る範囲だとすると、どこまで曲がると戻らなくなるか？

4,000 ミリで0.2%との答えだったが、これだと8ミリです。単位が違うのではないか。仮に80 ミリ曲がって戻らないとしても燃料棒は上下で固定されている。80 ミリの曲がりで戻らないとしても制御棒は片側支持のため押せば入ると思うがどうか？

### ➤ 資源エネルギー庁に対する質問

資源エネルギー庁パンフ『TALK』(H21.6) (H23.2.19 シンポジウムの配布資料) の記載内容が柏崎刈羽の中越沖地震時の実態と異なるようなので、別紙の質問をする。時間の関係もあるので文書回答を求めたい。

別紙参照

2月19日、「共に語ろう 電気のごみ～もう無関心ではられない～地域ワークショップ 柏崎」で配布された資源エネルギー庁パンフに関する質問

TALK.

考えよう、放射性廃棄物のこと。  
～原子力エネルギーの未来のために、地層処分～

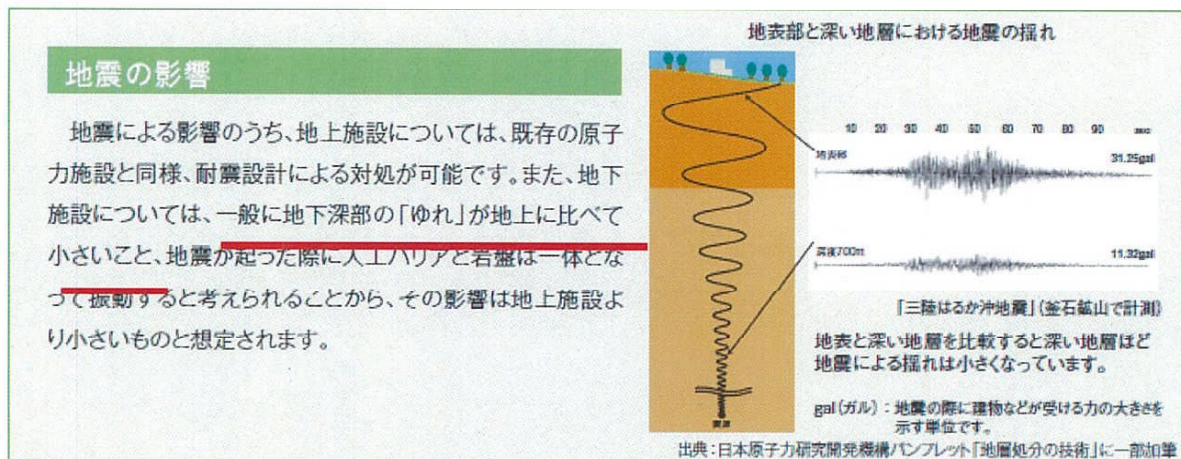
平成21年6月

経済産業省資源エネルギー庁

P.14 安定した地層の選定と地震の影響 地震の影響には下記の表現がある

安定した地層の選定と地震の影響

火山や地震・活断層の調査・研究の結果をもとに、火山や地震等の自然現象による地層の著しい変動を避けて処分地を選ぶことができます。また、地下深部は、地表に比べて地震による揺れの影響が小さいので、地震に耐えられるように処分施設を設計することによって対処可能と考えられています。



出典：日本原子力研究開発機構パンフレット「地層処分の技術」に一部加筆とあるが、

「地下深部は、地表に比べて地震による揺れの影響が小さい・・・」

「一般に地下深部の「ゆれ」が地上に比べて小さいこと」と明記されている。(赤下線部)

新潟県中越沖地震（平成19年7月16日）で柏崎刈羽原発は、地下の-280mの解放基盤面では1699ガルであったが原子炉建屋床面は680ガルが観測されたという。(1号機の例)

地下が地表付近より大きく揺れたのではないのか。

この事実は、中越沖地震作成された、経済産業省資源エネルギー庁パンフの記述と異なる。

こうしたパンフが各地に配布されていることを、柏崎刈羽住民として看過できない。

よって、経産省資源エネルギー庁に問う。

1. 「地下は地表より揺れが小さい」とした経産省資源エネルギー庁のパンフ記載内容は適切なのか。
2. 一般論として、地下は地表より揺れが小さいと言えるのか。
3. 地下が地表より揺れが大きかった中越沖地震柏崎刈羽原発の例も併記すべきでないのか。
4. 経済産業省資源エネルギー庁パンフ「TALK」を訂正するか。
5. 柏崎刈羽原発の地盤は一般的でないのか。
6. パンフ記載内容と柏崎刈羽原発の観測事実の関係の説明を求める。